令和四年度　後期入学試験問題　　国語総合

※答えは全て解答用紙に記入しなさい。　受験番号　（　　）

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

和歌の世界では、「花」といえばすなわち桜のことを指す。歌人たちに多くの名歌を詠ませてきたという点において、桜はまさにナンバーワンの花、堂々たる名花だ。

最近では、さまざまな輸入花を見ることができるし、かつてないほど洗練されたバラの花や蘭（らん）の花を手に入れることもできる。シクラメンやポインセチアなど、季節の風物詩として定着したものもある。が、①そんな中にあっても、桜だけは別格という気がする。なんというか、「花」という言葉ではくくりきれない、存在そのものが果てしない広がりを持った、まことに不可思議なもの――、それが桜だ。

②けれど桜に対する思い入れは、日本人独特のもののようだ。以前、デンマークの高校で、日本の古典について話をする機会があった。言葉は古くなっても、③その心情においては現代の私たちが大いに共感できるものがある、というようなことを述べ、その例として『源氏（げんじ）物語』に描かれた「人を恋する気持ち」や『伊勢（いせ）物語』に出てくる「桜への思い入れ」などを挙げた。

『源氏物語』のほうは、デンマークの若い人たちにも分かりやすかったようだ。が、④桜のほうは、どうもぴんとこないという顔をしている。

例えば、と私は、在原業平（ありわらのなりひら）の次の歌を挙げた。

　世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし

『伊勢物語』に登場する和歌で、『古今和歌集（こきんわかしゅう）』にも収められている有名な作品である。

「春になると私たちは、もうすぐ桜が咲くなあとわくわくし、早く咲かないかなあとイライラもし、咲けば咲いたでうきうきするいっぽう、風や雨で散ることを心配し、散り始めるとがっかりしてしまう……。本当に桜というのは私たちの心を振り回すもの。この世に桜というものがなければ、春の心はどんなにかのんびりと穏やかなものであろうか――、という逆説的な言い方で、桜のすばらしさと存在感をたたえているんですね。」

我ながらうまく説明できたと思ったのだけれど、学生たちはぽかんとしている。

なぜ、大の大人がそこまで一生懸命になるのか、ずいぶん大げさなんじゃないの、という反応である。

「大げさなんかじゃありません。今だって、桜前線というのがあって、毎日テレビのニュースや新聞で報道されているんですよ。」と桜前線のことを紹介すると、今度はぽかんを通り越して、⑤みんなゲラゲラ笑い始める始末。

「花が咲いたとか咲かないとかいった話題を、毎日わざわざニュースでやるなんて、ずい

ぶんのんきなんですね。」というわけだ。

そう言われてみると、例えば、チューリップ前線とか、ひまわり前線とか、そういうことを年がら年中やっているとしたら、これは実にのんきな感じがする。そういうおかしさを、彼らは感じたのだろう。でもでも、桜前線は、おかしくないのだ。[6]なんてったって桜である。桜は、我々日本人にとっては別格の女王様なのだ。そこのところが、どうも理解されにくいようだった。

しかも、これはデンマークでの体験ではないのだが、別のヨーロッパの国で、「なんで、あんな薄汚い色の花がいいのか？」と質問されたことがある。確かに、ピンクといっても、バラやスイートピーのようにはっきりしてはいない。どちらかというと、ねぼけたような色である。しかしそれが、日本の春の優しい青空とぼんやりした空気とに、実によく合うのだ。例えば真紅の桜なんて、考えただけでもめまいがしそうだ。

桜というのは、花だけを取り出して観賞するものではないのかもしれない。桜の咲いている空間ごと、そして時間ごと、日本の春という舞台の全てを含めて桜なのだという気がする。

俵　万智　「風の組曲」

問１　傍線部①「そんな中にあっても、桜だけは別格という気がする」とは、どのようなことか。次の中から適当なものを一つ選べ。

ア　和歌に詠まれてきた名歌の中でも、桜を題材にしたものは別格に多いということ。
イ　バラや蘭の花と比較しても、桜の美しさはひけをとらないということ。
ウ　季節感を演出する花の中でも、桜の存在は他の輸入花より優れているということ。
エ　輸入花をはじめ多くの美しい花の中でも、桜の存在感は際立っているということ。
オ　日本人は多くの輸入花に親しんでいるが、その中でも桜は特に親しみやすいということ。

問２　傍線部②「けれど桜に対する思い入れは、日本人独特のもののようだ」とあるが、筆者はなぜそのように考えるのか。次の中から適当なものを一つ選べ。

ア　桜は、日本の春の優しい雰囲気と、その春を味わおうとする日本人の心情に重なるから。
イ　桜は、和歌の歴史の中心的題材に据えられており、日本人なら誰でも知っている名歌も多くあるから。
ウ　桜は、日本の固有種であり、輸入花と比較しても別格の存在感があるから。
エ　桜は、日本人なら誰もが知っている花であると同時に、花見など行楽行事と強く結びついているから。
オ　桜は、出会いと別れを象徴する花であることを、日本人は経験的に知っているから。

問３　傍線部③「その心情」とは、どのような心情か。次の中から適当なものを一つ選べ。

ア　桜前線の動きに一喜一憂する昔の日本人の心情。
イ　友人や季節の変化を大切にする昔の日本人の心情。
ウ　あえて逆説的に述べようとする昔の日本人の心情。
エ　日本の春の雰囲気に恋を重ねる昔の日本人の心情。
オ　異性や四季の美しさに心を寄せる昔の日本人の心情。

問４　傍線部④「桜のほうは、どうもぴんとこないという顔をしている」とは、どのようなことか。次の中から適当なものを一つ選べ。

ア　なぜ日本人は桜へ思い入れがあるのか、理論的に理解できないということ。
イ　なぜ日本人は桜を歌に詠み込もうとするのか、理解できないということ。

ウ　なぜ日本人は桜前線に関心を持つのか、感覚的に理解できないということ。
エ　なぜ日本人は春を待ち焦がれる気持ちを逆説的に表現するのか、理解できないということ。
オ　なぜ日本人は桜へ思い入れがあるのか、感覚的に理解できないということ。

問５　傍線部⑤「みんなゲラゲラ笑い始める始末」とあるが、その理由はどのようなものか。次の中から適当なものを一つ選べ。
ア　全ての日本人が桜前線に興味を持ち、毎日のように報道されることが冗談のように感じられたから。
イ　桜前線をニュースとして取り上げる日本の報道姿勢を語る筆者の口調が一生懸命だったから。
ウ　大の大人が桜前線の報道に夢中になるなど、桜に特別の思い入れを抱いているのが滑稽に感じられたから。
エ　和歌にしろ桜前線にしろ、日本人が桜に強い愛着を抱くことが不可解に感じられたから。
オ　日本人がいかに桜に思い入れがあるかを語る筆者の口調があまりに熱心でほほえましく感じられたから。

問６　傍線部⑥「なんてったって桜である」における表現の特徴としてどのようなことが考えられるか。次の中から適当なものを一つ選べ。
ア　突然調子を変えることで、文体のリズムに変化をつけて読者を飽きさせない工夫をしている。
イ　あえて口語で表現することで、筆者の桜に対する率直な思いを強く語りかけている。
ウ　親しみやすい言葉を使うことで、桜が別格の花であることを外国人でも理解できるようにしている。
エ　促音「っ」を連続的に使うことで、歯切れの良さと明確な主張を読者に印象づけている。
オ　直前の「でもでも」と相まって、口語による親しみやすい語り口が主張の強さを和らげている。

【二】　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昆虫と入れ替わりにのめりこんだのが、現在研究している分子生物学。「生命とは何か」ということを分子のレベルで解明しようとする学問です。私が大学に進学した一九八〇年代初め、分子生物学というのは米国からやってきた新しい学問であり、探究心を刺激されました。二〇〇三年のヒトゲノム計画の完成によって、ヒトの遺伝情報（ヒトゲノム）が解読され、いまや遺伝子の全体地図がデータベース化されていますが、当時の分子生物学の「細胞の森」に散らばっていた遺伝子は未知のものだらけ。昆虫採集ではかなえられなかった「新種」を探す喜びに胸を躍らせ、虫採り網を放り投げてミクロな世界に入っていったんです。

それからの私は新しい遺伝子を見つけることにボットウし、多くの生物学者と同様、遺伝子の全体地図を作ることを目指しました。ところが、研究人生が二十年ほど過ぎたころ、ヒトゲノム計画によって地図は完成されてしまいました。もう探す「新種」はなく、私たちが苦労して発見したいくつかの遺伝子も、もはや大きな地図の中の点のような存在に過ぎない。私は遺伝子の研

究においても、「新種発見」の夢をなくしてしまったんです。

大きな挫折を感じた出来事がもうひとつあります。私は自分が発見したＧＰ２（グリコプロテイン２型）遺伝子の役割を世界に先駆けて突き止めようと長年研究を行ってきましたが、目に見えた成果が出ませんでした。時間と多額の資金をかけてＧＰ２遺伝子の情報を消去したマウスを作り、どんな異常が起こるかを観察したのですが、何も起こらなかったのです。ＧＰ２が生命体の部品として何らかの役割を果たしているのは確かなのに、ＧＰ２がなくてもマウスはピンピンしている。変化がなければ何も実証されないし、論文すら書けません。どうしたものかと困惑[2]しました。

新[1]しい遺伝子を見つける喜びを失い、ＧＰ２遺伝子の研究も進まない。最初は落胆しました。しかし、「待てよ[II]」と考えました。部品がひとつ欠けているにもかかわらず、問題なく動くというのは機械では考えられません。一方、生命体は何億年もの進化のプロセスで自然淘汰（とうた）が行われているので、残されている部品には何らかの役割が必ずあるはずです。その部品がなくても生命体に変化が起きないのは、何らかの方法でないものを補っているからではないか。生命は絶え間なく流れながら全体の調和を保ち、機械とは違う柔らかさを持っている。可変性を持ちながら平衡[3]を保つ「動的平衡」にこそ生命の本質があるのではないかと気づき、執筆活動を通してそのことを広く伝えると、多くの人たちから反響がありました。

分子生物学の世界では少し前まで、生命を機械論的にとらえた研究が主流でした。私が遺伝子の全体地図の作成に研究人生をかけてきたのも、遺伝子という生命体を構成する部品をつまびらかにすることが「生命とは何か」を解き明かすことだと信じていたから。でも、ヒトゲノムで遺伝子の地図が完成されて生命についてすべてがわかったかというと、そうではなく、依然として生命は謎に満ちていました。機械論的に生命をとらえる考え方では見えないものがあるのではないだろうか。漠然とそう感じていたことが、ＧＰ２遺伝子の研究をそれまでとは別の視点からとらえ直すフセキ[4]となりました。

もし、私が機械論的な視点にとらわれたままでいたら、「動的平衡」という概念にたどり着くことはなかったかもしれません。しかし、失敗に終わったと思っていたＧＰ２遺伝子の研究結果に、私が新たな解釈を与えることができたのは、遺伝子の地図を作ることに全力を尽くし、そこに限界を感じて別の視点から考え直すというプロセスがあってこそ。既存の概念から自由になり、新しいものを発見するには、やはり道[III]のりというものがあるんです。あるところまでいかないと見えない風景がある。どんな仕事でも、それは同じなのではないでしょうか。

福岡　伸一「知恵の学校」

問１　傍線①～④の漢字は平仮名に、平仮名は漢字に直して書きなさい。

問２　傍線（Ⅰ）「新しい遺伝子を見つける喜びを失い、ＧＰ２遺伝子の研究も進まない。」

これを別の言葉で何と言っているか。八字以内でこたえよ。

問３　傍線（Ⅱ）『「待てよ」と考えました。』とあるが、どう考えたのか。四十五字以内で答えよ。

問４　傍線（Ⅲ）「道のり」とあるが、具体的にはどういうことか。五十字以内で答えよ。

【三】次の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

①　小豆　②　田舎　③　時雨　④　土産

⑤　玄人　⑥　足袋　⑦　木綿　⑧　弥生

【四】（　）に漢字を一字入れて、四字熟語を完成させなさい。

（１）　内（　）外患・・・内外ともに心配ごとがあること。

（２）　質（　）応答・・・質問と受け答え。

（３）　感慨（　）量・・・身にしみて、心に深く感じること。

（４）　首（　）一貫・・・初めから終わりまで、筋が通っていること。

【五】　次の四字熟語の傍線のカタカナを漢字に直しなさい。

１　コウシ混同を慎む。　２　ジュウオウ無尽の活躍だ。　３　コグン奮闘する。

４　取捨センタクする。　５　相手のイッキョ一動に注目する。　６　快刀乱マ

７　天ガイ孤独　８　熟リョ断行　９　多岐亡ヨウ　１０　懇切丁ネイ